

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名: 学習院大学

1. 事業の概要

事業名称	集団での学びを意識した日本語教育ー地域に開かれた大学をめざしてー
事業の目的	生活者としての外国人が、継続的・自律的に日本語学習に取り組めるようになることを目指し、学習ニーズ及び学習環境を考慮し、個の学びと集団での学びのそれぞれの重要性に配慮した日本語教育プログラムを実施する。そのために、教室内の学びと教室外の学びの連動がはかれる教材の開発、「集団での学び」を鍵概念とした研修を行う。各種公共施設、交流団体などの協力も得ながら教材作成、教室運営を行い、地域に暮らす外国人及び彼らの日本語学習に対する一般社会の人々の理解を深めつつ、地域の日本語教育関係者のネットワーク作りに貢献することを通じ、知(地)の拠点として、地域に開かれた大学となることをめざす。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	豊島区は3万人超の外国籍住民が暮らしており、これは区人口の1割を超えている(平成31年1月1日現在)。増え続ける外国人数に比して、区内8つの日本語教室に継続的に参加する人は少ない。その一方で、指導・支援の後継者不足という問題を抱える教室もある。在住外国人のニーズや学習条件・学習環境に配慮しつつ、自律的な学習の促進、参加意欲を保てる教室作りが必要であると同時に、教室を運営する組織作り、組織を構成する人員の育成が急務である。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	該当せず
事業内容の概要	本事業では以下の3つの取組を通じて上記の課題を解決した。 ①日本語教育の実施(「集団での学び」を意識した「生活のための日本語」教室):在住外国人の日本語学習ニーズや学習環境を考慮し、教室に通う意義が感じられると同時に、教室外での日本語使用が促されることを意図した日本語教育プログラムを設計し実施した。 ②日本語教育を行う人材の養成・研修の実施(「共に学ぶ環境作り」を目指した研修):日本語教室の場を「共に学ぶ」場と位置付け、集団での学びを可能とする活動のあり方、指導者集団の協働等をテーマに研修を実施し、学習者や指導者の共に学ぶ力に配慮した授業計画・組織運営のできる人材の育成を目指した。 ③日本語教育のための学習教材の作成(「集団での学び」と「個の学び」の相互作用を促す「生活のための日本語」教材の開発):自律的・継続的学習を可能とする環境作りを目指し、学習者自身が教室における集団での学びを実感できることを意図した教材を開発した。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	金田智子	学習院大学文学部・教授
2	小林立明	学習院大学国際センター・准教授
3	中上亜樹	学習院大学文学部・准教授
4	黒江裕子	豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習グループ・職員
5	品田潤子	公益社団法人国際日本語普及協会<AJALT>・教師会員
6	吉田聖子	あけぼの会・日本語コーディネーター
7	米勢治子	東海日本語ネットワーク・副代表
8	文野峯子	人間環境大学・名誉教授



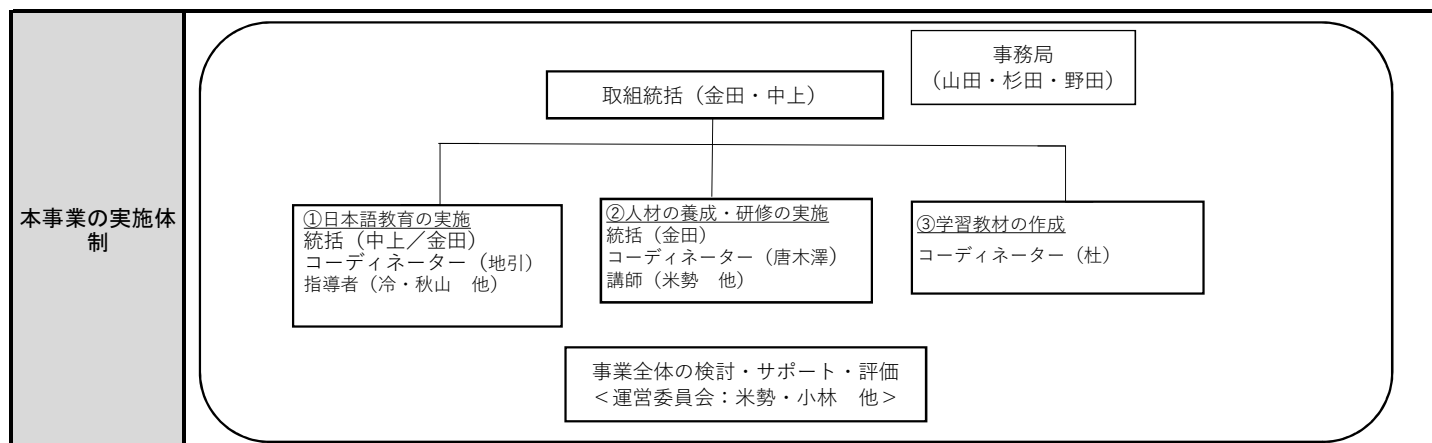
【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年5月29日 (火) 15:00～17:30	2.5時間	学習院大学南1号館 103号教室	黒江裕子、品田潤子、文野峯子、吉田聖子、小林立明、中上亜樹、金田智子、千秋麻帆、地引愛、唐木澤みどり、野田佳代、大泉佳菜	1. 平成29年度事業の成果及び課題に関する意見交換 2. 平成30年度事業における3つの取組の計画に関する検討
2	平成30年11月16日 (金) 15:00～17:30	2.5時間	学習院大学南1号館 106号教室	黒江裕子、品田潤子、米勢治子、文野峯子、吉田聖子、小林立明、中上亜樹、千秋麻帆、地引愛、唐木澤みどり、野田佳代、大泉佳菜、杜長俊	1. 取組1(日本語教室)の実施状況と現段階の課題に関する意見交換 2. 取組2(研修)の実施状況と課題に関する意見交換 3. 取組3(教材作成)の作成物に関し、現段階の課題に関する意見交換
3	平成31年2月16日 (土) 10:30～13:00	2.5時間	学習院大学 西5号館5階会議室	文野峯子、米勢治子、吉田聖子、金田智子、小林立明、千秋麻帆、地引愛、唐木澤みどり、野田佳代、大泉佳菜、杜長俊	1. 3つの取組の実施報告と、来年度に向けての課題検討 2. 今年度事業の評価 3. 来年度以降の事業計画に関する意見交換

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	学習院大学を拠点として、豊島区学習・スポーツ課生涯学習グループを通じて地域との連携を推進した。豊島消防署への出張授業の依頼や一般参加者の諸活動への協力依頼を通じ、よりよい教材・コース作りのための意見聴取ができた。外国人の日本語学習や日本理解を推進するだけでなく、自治体側にも外国人に対する理解を深めてもらい、効果的に情報を伝える工夫などに関する意識を高めてもらうことも可能となった。また、区内の他の日本語教室から、研修への参加者を募り、教室間の横のつながりを強化すると同時に、情報交換・意見交換を始めた協力関係を築いた。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制



3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:「集団での学び」を意識した「生活のための日本語」教室 <教室A:わくわくクラス>】										
目的・目標	1. 在住外国人が地域社会で安全かつ快適な生活を送り、社会の一員となるために必要となる日本語を身に付ける。日本語を使用する上で必要となる社会文化知識を理解する。 2. 教室での学習、教室内外での日本語使用・日本語学習に対する動機付けを高める教材を活用し、有効な活動を実施することを通じ、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。									
内容の詳細	1. 地域社会の一員として生活するために必要な日本語と社会文化知識を扱う日本語教室の企画・運営を行った(「学習院大学わくわく」として日本語教室)。災害発生時や緊急時の対応、医療機関の受診など、生命にかかわる事柄に対処するためだけでなく、地域の住民として快適かつ心豊かに暮らすために、必要となる日本語を習得することを目指した。安心・安全・快適な生活を行うためには、日本人との接触機会を増やすことや、日本語でやりとりをしあう人間関係を築くことが重要だと考え、人と知り合い、関係を築き、社会を広げていくための日本語を身に付けられるようなプログラムを設計し、標準的なカリキュラム案に準拠しつつも、様々な知見をもとに社会を広げるための日本語を新たな学習項目として加えた。 2. 教室での学習(集団での学び)の意義を感じることでできる活動、教室外での学習を促すための教材をプログラムの中に積極的に取り入れ、日本語学習に自律的に取り組むための基礎作りを行った。併せて、自己評価及び学習管理の方法を知ることのできる学習ポートフォリオを引き続き活用した。長年日本に暮らしながら、就業・育児等により学習機会に恵まれなかった人たち、日本語学習に対する動機の維持に困難を感じる人たちの状況に配慮した内容・方法を心がけた。指導者には外国人も配置し、媒介語や多文化性を生かした授業を展開した。応募学習者のニーズやレディネスの違いに対応するため、2教室(教室A:わくわくクラス、教室B:ぐんぐんクラス)を設けた。 3. 「わくわくクラス」では、滞在期間が短く、簡単な挨拶以外は話すことが難しく、ひらがな・カタカナの読み書きが難しい学習者を対象とした。「標準的なカリキュラム案」を参考に、病院や交通機関の利用、地震等緊急時の対応など、日本で生活する上で必要度が高いと思われるテーマを中心に扱った。併せて、東京消防庁豊島消防署目白出張所の協力による通報訓練や医療関係者の協力による診察のロールプレイをはじめとする実践的な授業を通して、緊急時への備えや本教室外での実践を促した。また、自身の経験や視聴した映像の内容を記録する事前学習教材、学習内容の記録・実践・定着を促す事後学習教材を提供し、「個の学び」を促進しつつ、教室では経験の共有やペアやグループでの練習など「集団での学び」を意識した活動を行った。さらに、毎回の授業で、文字学習や学習方法を身に付けるための時間(「読み書き」コーナー)や、人間関係を構築し、維持するためのやり取りを扱った時間(「仲良くなろう」コーナー)を20分程度設け、教室外での実践と自律的・継続的な学習を促した。									
実施期間	平成30年6月2日～平成31年1月19日				授業時間・コマ数		1回 2.5時間 × 30回 = 75時間			
対象者	豊島区及び近隣地域在住・在勤の外国人(特に、これまで日本語学習機会を有効に活用できていない人)				参加者		総数 71 人 (受講者30人、指導者・協力者(ゲスト等)41人)			
カリキュラム案活用	参加学習者の背景や滞在目的、言語環境、日本語使用場面、日本語能力等を把握した上で、「カリキュラム案」に準拠したコースデザインを行いつつも、不足していると思われる項目(自分を理解してもらい関係を築くために自分の経験を話す、自文化を紹介する。等)を追加した。 また、学習者の自律的な学びの促進、日本語能力の把握、学習の成果及び本取組の効果を把握するために、「日本語能力評価について」を参考に、ポートフォリオを開発しており、それに修正を加えつつ活用した。									
使用した教材・リソース	自主作成教材(平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業作成教材、平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業作成教材 参照【日本語教育のための学習教材の作成】:「集団での学び」と「個の学び」の相互作用を促す「生活のための日本語」)									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	11	0	0	4	1	1	0	1	3	0
	台湾(2人)、イギリス(2人)、香港(1人)、マレーシア(1人)、スペイン(1人)、モロッコ(1人)、セネガル(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年6月2日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	8	あいさつ	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、長・中・短期の目標を設定した。 ②近所の人と簡単なあいさつができることを目標に、時間に合わせた挨拶表現を練習し、学習者同士で、ロールプレイを行った。 【読み書き】自分の名前をカタカナで書けることを目標に、50音表から自分の名前の文字を探し、書く活動を行った。		【前半】 杜長俊 <無償> 【後半】 岩藤かおり	秋山文菜(指導補助) 岩田香里(指導補助) 杜炳萱(指導補助) 【前半のみ】 鄭紅(通訳)	
2	平成30年6月9日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	6	買い物① (対面で)	コンビニやデパートなどで対面で買い物ができることを目標に、商品の数え方などの表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。 【読み書き】メニューにある濁音・半濁音の表記を見て、発音できることを目標に、50音表を使いながら、メニューの音読を行った。		秋山文菜	なし	
3	平成30年6月16日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	7	ドラッグストア	ドラッグストアで薬剤師に症状を簡単に説明し、薬を購入できることを目標に、症状の言い方などを練習し、学習者同士でロールプレイを行った。 【読み書き】ドラッグストアにある商品表記が読めることを目標に、50音表からひらがなを探し、読む活動を行った。		冷俊俊	秋山文菜(指導補助)	

4	平成30年6月23日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	5	道聞き (建物内で)	売り場やトイレ等施設の場所がわかることを目標に、階数や方向を示す表現の聞きとり練習をし、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】デパートや駅などにある長音の表記を見て発音できることを目標に、音読を行った。	地引愛	冷俊俊(指導補助)
5	平成30年6月30日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	2	電車	下車駅で目的地に近い出口や改札口の場所がわかることを目標に、改札看板の漢字の読み取り表現を練習した。 【読み書き】メニューや駅名などにある促音の表記を見て発音できることを目標に、音読を行った。	秋山文菜	なし
6	平成30年7月7日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	5	交番 (忘れ物センター)	交番や忘れ物センターで紛失物と紛失状況について簡単に説明できることを目標に、財布の色や形、特徴に関する表現を練習し、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】駅名などにある拗音の表記を見て発音できることを目標に、音読を行った。	冷俊俊	秋山文菜(指導補助)
7	平成30年7月14日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	3	郵便	荷物を希望の方法で郵送できることを目標に、より早く到着する方法の尋ね方などを練習し、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】日本地図や世界地図を使用し、地名を読み上げながら、ひらがな・カタカナの表記と発音のルールの復習をした。	地引愛	冷俊俊(指導補助)
8	平成30年7月21日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	6	レストラン① (入店)	レストランで店員と入店のやりとりができることを目標に、人数の言い方や待ち時間を尋ねる表現を練習し、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】食べたい料理があるレストランに入店することを目標に、店頭のメニューボードを読む活動をした。	秋山文菜	なし
9	平成30年7月28日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館 106室	4	レストラン② (注文・会計)	料理を選んで注文することができることを目標に、料理名がわからない際の注文表現や会計を依頼する表現を練習し、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】様々なレストランのメニューを読み取り、予算内で注文するロールプレイ活動を行った。	冷俊俊	秋山文菜(指導補助)
10	平成30年8月4日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	5	レストラン③ (実践)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために設定した短期目標の達成度を自己評価した。 ②近隣のそば屋に赴き、教室内で学習したレストランでの店員とのやりとり(入店・注文・会計)を実際に行い、達成度を自己評価した。 【読み書き】そば屋によくある特別な料理名を知り、注文できるよう、音読した。	【前半】 秋山文菜 【後半】 冷俊俊	杜炳萱(指導補助)
11	平成30年8月25日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	3	初対面の人との会話 (出身地について)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、これまでの学習を振り返りながら、学習ポートフォリオを使用し、短期的な目標を新たに設定した。 ②相手の出身地を聞いて、それに関わる簡単なやりとりができることを目標に、学習者同士で相手の出身地の名所や名物を聞き合った。	地引愛	なし
12	平成30年9月1日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	6	地震・火災① (避難指示)	避難時に適切な行動をとれることを目標に、よく使われる表現を聞きとる練習を行い、簡易的な避難訓練を行った。 【読み書き】携帯電話で簡単な言葉を入力できることを目標に、フリック入力の方法を知り、自身の名前を入力をした。	冷俊俊	秋山文菜(指導補助)
13	平成30年9月8日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	4	地震・火災② (防災グッズの購入)	防災グッズを購入できることを目標に、グループで非常用持ち出し袋に入れるものを考え、発表した。 【読み書き】携帯電話であいさつやお礼など、短い文を入力できることを目標に、フリック入力で入力する練習をした。	秋山文菜	冷俊俊(指導補助)
14	平成30年9月15日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	4	ごみ	ごみ分別表が読み取れることを目標に、曜日の漢字を読む練習やごみの種類がわからない時に聞く表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。 【読み書き】SNS上で友人や教師と簡単なやりとりができることを目標に、本教室のFacebookの写真にコメントを投稿した。	鄭紅	冷俊俊(指導補助)

15	平成30年9月22日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	3	クリーニング屋	クリーニング屋が利用できることを目標に、曜日を言う練習やしみがああることを伝える表現を練習し、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】電子メールで欠席と遅刻のメッセージを送れることを目標に、メールの構成やよく使われる表現を知り、メールを作成した。	地引愛	鄭紅(指導補助)
16	平成30年9月29日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	5	レストラン④ (予約)	電話でレストランの予約ができることを目標に、希望する日にちや時間を言う練習をし、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】申込書に何を書くか分かることを目標に、代表的な漢字の形と意味を知り、様々な申込書から書く項目の読み取りをした。	秋山文菜	杜炳萱(指導補助)
17	平成30年10月6日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	4	消防車・救急車① (119番通報訓練)	119番に電話し、消防車及び救急車を呼べることを目標に、名前や住所、状況に関する質問に答える練習をし、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】個人情報を申込書の正しい欄に書く活動を行った。	地引愛	秋山文菜(指導補助) 侯翼君(指導補助)
18	平成30年10月13日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	3	消防車・救急車② (消防署連携授業)	119番に電話できることを目標に、通報訓練用の電話を使用し、消防士と通報訓練を行った。 (ぐんぐんクラスと合同)	秋山文菜	なし
19	平成30年10月20日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	4	病院① (診察)	診察でのやりとりができることを目標に、症状の表現や医師からの指示表現を聞いてわかる練習をし、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】申込書の指定書式に合わせて、正しく生年月日を書く活動を行った。	地引愛	秋山文菜(指導補助) 岩田香里(指導補助)
20	平成30年10月27日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	5	病院② (実践)	初診受付と診察のやりとりができることを目標に、初診であることを伝える表現を練習し、症状の表現や医師からの指示表現を復習した。最後に、医療関係者を招き、診察のロールプレイを行った。 【読み書き】症状に合った病院に行けることを目標に、診療科を読み取る活動を行った。	秋山文菜	なし
21	平成30年11月3日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 東1号館 604室	8	タクシー	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、これまでの学習を振り返りながら、学習ポートフォリオを使用し、短期的な目標を新たに設定した。 ②運転手に行先(自宅)を伝えられることを目標に、目印や方向を示す表現を言う練習し、教師とロールプレイを行った。	地引愛	秋山文菜(指導補助)
22	平成30年11月10日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	8	買い物② (試着)	服や靴が買えることを目標に、試着の依頼表現などを練習し、学習者同士でロールプレイを行った。 【仲よくなろう】「いつ」「どこ」「誰と」「何を」の意味の復習をし、自身の週末の出来事について、話す活動を行った。	秋山文菜	岩田香里(指導補助)
23	平成30年11月17日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	7	近所の人との会話 ① (食事やイベントに誘う)	誘いや断り表現を練習し、学習者同士で、実際のチラシを使いながらイベントに誘うロールプレイを行った。 【仲よくなろう】「いつ」「どこ」「誰と」「何を」などの質問ができることを目標に、学習者同士で週末の出来事について、聞き合った。	地引愛	秋山文菜(指導補助) 侯翼君(指導補助)
24	平成30年12月1日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	6	近所の人との会話 ② (趣味について)	趣味に関する表現を練習し、学習者同士で、休日の過ごし方について尋ね合う活動を行った。 【仲よくなろう】食事やイベントに誘われた際に、相手の気持ちを考慮した断り表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。	地引愛	秋山文菜(指導補助) 杜炳萱(指導補助)
25	平成30年12月8日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	10	買い物③ (花屋)	花屋が利用できることを目標に、色や購入理由に関する表現などを練習し、教師とロールプレイを行った。	秋山文菜	なし
26	平成30年12月15日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	9	近所の人との会話 ③ (おすすめを尋ねる)	すすめられた観光地への行き方や所要時間を尋ねる表現を練習し、学習院大学の学部生をゲストに迎え、実際におすすめの場所を尋ねる活動を行った。 【仲よくなろう】褒めにつなげる表現を練習し、学習者同士で、お互いの持ち物についてコメントする活動を行った。	地引愛	秋山文菜(指導補助) 鄭紅(指導補助)

27	平成30年12月22日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	11	近所の人との会話 ④ (長期休暇の予定 について)	相手との関係を考慮しつつ、休暇の予定について話せることを目標に、動詞の活用を練習し、学習者同士で長期休暇の予定について聞き合う活動を行った。 【仲よくなろう】相手に興味があることを示すことを目標に、学習者同士で、お互いの写真を見せ合い、コメントする活動を行った。	杜長俊 <無償>	秋山文菜(指導補助) 岩田香里(指導補助)
28	平成31年1月5日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 東1号館 709室	5	近所の人との会話 ⑤(お土産を渡す)	相手の文化に考慮して土産を渡せることを目標に、味や中身に関する表現を練習し、自文化で一般的なお土産の写真を見せながら、紹介する活動を行った。 【仲良くなろう】お土産を受け取る際の感謝の表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。	秋山文菜	杜炳萱(指導補助)
29	平成31年1月12日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	8	文化紹介 (実践)	実物を見せながら、自文化の食べ物や飲み物を簡単に説明し、質問に受け答えをするイベントを行った。 イベントには学習者が誘った友人や家族をゲストとして招いた。	地引愛	岩田香里、杜炳萱、鄭紅、 侯翼君(全員指導補助) 【後半のみ】 冷俊俊(通訳)
30	平成31年1月19日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室	6	コミュニティ探し	①設定した長・中・短期目標の達成度を自己評価し、学習者間で評価やアドバイスをおこなった。また、本教室修了後、日本語学習を継続的・自律的に行うために、何をするかを発表し、学習者同士で共有した。 ②修了後に、他の日本語教室や地域のコミュニティに参加することを目標に、ホームページの読み取りや主催者への連絡に必要な表現を練習し、修了後に行きたいコミュニティを探す活動を行った。	【前半】 地引愛 杜長俊 <無償> 【後半】 地引愛	侯翼君(指導補助)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成30年6月2日～第30回 平成31年1月19日：事前学習教材の利用、学習者間での経験や知識、実践の共有】
「集団での学び」を意識した活動の一環として、ペアやグループで知識や経験・実践を話す活動や、事前学習教材の記述内容を共有する活動を行った。流れは以下の通り。

<授業前>

- ①教室内で、次回の内容の事前学習教材を配布。次回の内容を確認。(「個の学び」の促し)
- ②学習者は事前学習教材を使用し、予習。(「個の学び」)

<毎回の授業>

事前学習教材の記述内容の共有やテーマに関わる経験や実践の共有。(「集団の学び」)

(写真：左)事前学習教材のクイズの答え(病院の受付・診察・会計、薬局の受付・会計で提出・受け取るもの)を学習者間で共有しているところ
(写真：右)経験した災害や自国でよくある災害の知識や経験を共有しているところ



○取組事例②

【第30回 平成31年1月19日】
「集団での学び」を意識した活動の一環として、自己の学習や学習方法を振り返る学習ポートフォリオの記述内容を学習者間で共有する活動を行った。
(写真：左)学習者が学習ポートフォリオ(自分の立てた目標についての振り返り部分)を記入しているところ
(写真：中央)学習者同士で、学習ポートフォリオ(自身の日本語能力や日本語学習について評価している部分)を読み合い、評価やアドバイスをし合っているところ
(写真：右)学習者が学習ポートフォリオ(自身の修了後の継続的な学習方法や手段の提案部分)を共有しているところ



(2) 目標の達成状況・成果

1. 日本語能力の向上と社会文化知識の習得について

・継続的に通い続けた学習者を対象に、教室の内容や自分の日本語能力を振り返るアンケートを行った。アンケートに答えた全員が、教室に通ったことによって、「日本語が前より上手になった」または「かなり上手になった」と答え、日本語能力の向上を肯定的に自己評価していた。そのほか、「日本語を使う機会が増えた」、「日本で生活しやすくなった」、「日本の文化・社会・習慣の知識が増えた」など使用機会の増加や社会文化知識の獲得について肯定的に評価をしていた。

・具体的な行為について尋ねると、店員や医者との会話、旅行時などに日本語能力の向上を感じるという感想が聞かれた。文化イベントに参加した学習者の家族によるアンケート回答にも同様の感想があった。また、友人や職場での同僚との会話でも向上を感じるという感想があり、人間関係の構築と維持という点においてもある程度の成果があるといえる。

・コーディネーターと日本語指導者が「とよた日本語能力判定」の「とよた日本語能力レベル」の評価軸を参考に、学習者とのやりとりや成果物から学習者の日本語能力の判定を行った。継続的に教室に通った学習者の結果を見ると、教室に通う時点で未学習段階(レベル0)だった学習者は、「聞く」「話す」に関しては、要支援段階(レベル2)程度の日本語能力の伸長が見られた。また、基礎段階(レベル1)だった学習者は、自立段階(レベル3)に近い要支援段階(レベル2)程度の日本語能力の伸長が見られた。教室に通う時点で要支援段階(レベル2)だった学習者は、「聞く」「話す」に関しては、自立段階(レベル3)と判定でき、日本語能力の伸長が見られた。

以上のことにより、学習者の自己評価、コーディネーターと日本語指導者による能力判定から日本語能力の向上と社会文化知識の獲得について一定の成果があるといえるだろう。しかし、学習者のアンケートやインタビューから、学習した場面以外では、日本語を使うことが難しいことや、学んだことと違うやりとりが発生すると対応が難しいという回答があったこと、そして、「読み」「書き」の能力に関しては、要支援段階(レベル2)に達したと判定できなかった学習者もいることから、授業で学んだ内容以外における日本語能力の向上や会話を調節してもらうストラテジーの習得、「読み」「書き」の能力の向上に関して課題が残っている。

2. 継続的・自律的な学びにつながる力の養成について

・継続的に通い続けた学習者を対象におこなったアンケートの回答に、「学習意欲が増加した」「積極的に実践機会をつくるようになった」「日本語能力・日本語学習に自信がついた」などの感想があった。これにより、日本語使用・日本語学習に対する態度の変容がみられたことがわかり、日本語の使用や日本語学習に対する意欲の向上につながったといえるだろう。また、教室内での学習をきっかけにタクシー・クリーニング屋・花屋の利用など生活範囲の拡大がみられ、日本語使用・日本語学習に対する動機が促進され、継続的・自律的な学びを促すことに関して成果があったといえるだろう。

・昨年に引き続き、教室内と教室外において学習者の日本語学習を記録・支援するツールとして「学習ポートフォリオ」を使用した。昨年度は、記録する時間を設けるまでにとどまったが、今年度は、「集団での学び」を意識した活動の一環として、記録した学習ポートフォリオを学習者間で共有する活動を行った。学習者間の共有によって、文法の正確さや発話量の多さに注目していた学習者が、場面を意識して自己の気持ちを表すことに注目するようになるなど、新たな視点の獲得についての記述があった。また、共有の過程で、日本語能力や学習方法を励まし合う様子がみられ、日本語使用・日本語学習に対する動機が促進されていると考えられる。

・開講当初は休みがちだった学習者が徐々に継続的に本教室に通うようになった。また、昨年度、修了後の学習機会の確保や社会参加を促す仕掛けが不十分であったことを踏まえ、修了後のコミュニティ探しの活動を行った。実際に他の日本語教室に訪問するという声があり、継続的・自律的な学びに結びつく可能性が生まれたといえる。

以上のことにより、教室内外での日本語使用・日本語学習に対する動機が促進され、継続的・自律的な学びを促すことについて一定の成果があったといえるだろう。しかし、他の学習者の復習方法が知りたいなどの共有の機会を求める意見があった。学習者間の共有の過程で、日本語使用・日本語学習の動機が促進される可能性があるため、継続的・自律的な学びにつながる支援が十分でなかったと考えられる。また、今年度は学習ポートフォリオの記述内容の共有活動を行ったことで、継続的・自律的な学びが促進されたが、授業時間の都合上、配布した全ての学習ポートフォリオを授業内で扱うことはできなかった。教室外での記入や共有も視野に入れつつ、学習ポートフォリオの利用方法をさらに改善していくことが必要だと考えられる。

(3) 今後の改善点について

1. 日本語能力の向上と社会文化知識の習得について

・学習者のアンケートでは、学習した場面以外では、日本語を使うことが難しいという回答があったが、教室内の学習語彙や表現に関しては、汎用性が高いものを提示している。そのため、教室外において、提示しているテーマとは違った場面での使用を示す活動など、汎用性を示せるような教室活動が望まれる。また、学習した表現を学習した場面以外で利用できる場面を学習者から提示してもらうなど、教室活動の工夫をすることが必要であろう。

・「読み」「書き」の能力の向上については、授業内で十分に時間をかけているとはいえない。一方で「読み」「書き」の学習は個人で行える活動も多く、教室内で集団で学習したことを踏まえ、インターネット上やSNSの利用も視野に入れ、教室外で個人で行う学習を行い、教室内で再び共有するなど、教室内外を有効に活用し、「読み」「書き」の能力が向上されるような仕組みや活動を構築したいと考える。

2. 継続的・自律的な学びにつながる力の養成について

・昨年度まで、「学習ポートフォリオ」の使用は、学習者が記録する機会を設けるまでにとどまっていたが、今年度は記録した学習ポートフォリオを共有する活動を行い、日本語の使用の拡大や学習に対する意欲の高まりに関して成果がみられた。一方、授業時間の制限や学習者の欠席により、すべての「学習ポートフォリオ」を記入できた学習者はいなかった。ポートフォリオ記入や意義・目的の理解には時間がかかる傾向があるが、自己の日本語能力を客観的な尺度を基に評価するなど、教室外でも記入できるものもある。目的や用途によって、インターネット上で記入・共有することを視野に入れつつ、学習ポートフォリオの使用目的と利用方法を整理し、継続的・自律的な学びの支援を続けていく必要がある。

・昨年度、本教室修了後の学習機会の維持や社会参加を促す仕掛けが不十分であることが課題であったことから、今年度は本教室修了後のコミュニティ探しの活動を行った。コミュニティの中には、他の日本語教室も含まれる。活動後、「新しいコミュニティがどのようなかかわらないため、不安である」というような反応があった。学習者の不安に配慮し、他のコミュニティへの参加を後押しする学習内容・方法の検討が必要である。

日本語教育の実施【活動の名称:「集団での学び」を意識した「生活のための日本語」教室　＜教室B:ぐんぐんクラス＞】										
目的・目標	1. 在住外国人が地域社会で安全かつ快適な生活を送り、社会の一員となるために必要となる日本語を身に付ける。日本語を使用する上で必要となる社会文化知識を理解する。 2. 教室での学習、教室内外での日本語使用・日本語学習に対する動機付けを高める教材を活用し、有効な活動を実施することを通じ、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。									
内容の詳細	1. 2. は、教室Aを参照のこと 3. 「ぐんぐんクラス」では、日本についての知識は豊富であるが、一人でできることが限られている学習者を対象とした。「標準的なカリキュラム案」を参考に、不在票や公共料金・住まい探しなど経験頻度が高くなくとも、日本での生活が豊かになると思われるテーマを中心に扱った。併せて、東京消防庁豊島消防署目白出張所の協力による通報訓練と防災に関する相談を通して、日本生活における社会文化知識や日本社会への理解を促した。また、人間関係の構築と維持のための会話の話題づくりの一環として、自文化や自身のコミュニティに関する情報を発信する場を設けた。 ＊指導経験の少ない大学院生や学部生の教育実践の場ともなっており、指導者・補助者ともに、無償である。									
実施期間	平成30年7月7日～平成30年12月15日				授業時間・コマ数		1回　2.5時間　×　20回　＝　50時間			
対象者	豊島区及び近隣地域在住・在勤の外国人（特に、これまで日本語学習機会を有効に活用できていない人）				参加者		総数　51　人 （受講者　21人、　指導者・協力者（ゲスト等） 30人）			
カリキュラム案活用	参加学習者の背景や滞在目的、言語環境、日本語使用場面、日本語能力等を把握した上で、「カリキュラム案」に準拠したコースデザインを行いつつも、不足していると思われる項目を追加した。 また、学習者の自律的な学びの促進、日本語能力の把握、学習の成果及び本取組の効果を把握するために、「日本語能力評価について」を参考に、ポートフォリオを開発しており、それに修正を加えつつ活用した。									
使用した教材・リソース	自主作成教材									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内 訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	8	3	0	1	0	0	0	0	0	0
	台湾(5人)、フランス(2人)、ドイツ(1人)、カナダ(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年7月7日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	6	自己紹介① (新しいコミュニティ への参加)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、長・中・短期の目標を作成した。 ②自己紹介の内容を考え、練習し、学習者同士でインタビュー活動を行った。		＜無償＞ 鄭紅	＜全員無償＞ 岩田香里、杜炳萱、侯翼君、 三橋美巴、王ロセン、 小黑真輝	
2	平成30年7月14日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	7	公共料金	電気や水道の使用量のお知らせを読み取り、公共料金の使用状況や節約方法について話し合う活動を行った。		＜無償＞ 鄭紅	＜全員無償＞ 岩田香里、杜炳萱、侯翼君、 原珠希、網野瑞穂、 代市ゆり、田和美美菜	
3	平成30年7月21日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	7	買い物 (服)	希望するサイズ・色の服や靴等を買うことを目標に、他のサイズの有無を尋ねる表現や取り寄せ依頼の表現を学び、ロールプレイを行った。		＜無償＞ 杜炳萱	＜全員無償＞ 岩田香里、鄭紅、侯翼君、 寺地容子、王ロセン	
4	平成30年7月28日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館 101室	8	不在票	再配達依頼が電話でできることを目標に、不在票の読み取りや依頼する際の表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。		＜無償＞ 侯翼君	＜全員無償＞ 岩田香里、鄭紅、 原珠希、小黑真輝	
5	平成30年8月4日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	9	あいさつ	会社の上司や同僚、学校の先生、近所の人など、相手の立場を把握し、季節や場面によって適切な挨拶ができることを目標に、必要な表現を練習後、ロールプレイを行った。また、あいさつの一環として、残暑見舞いを書く活動を行った。		＜無償＞ 岩田香里	＜全員無償＞ 鄭紅、侯翼君、原珠希、 寺地容子、三橋美巴、 網野瑞穂、代市ゆり、 田和美美菜	
6	平成30年8月25日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	6	アルバイト・パート 探し	自分に合った条件のアルバイト・パートを探し、応募のための電話や面接で質問に適切に答えることを目標に、求人広告の読み取りや志望動機や勤務希望を伝える表現を練習し、教師とロールプレイを行った。		＜全員無償＞ 網野瑞穂 原珠希	＜全員無償＞ 岩田香里、鄭紅、 田和美美菜	
7	平成30年9月1日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	8	旅行 (ホテルやチケット の予約)	電話でホテル予約ができることを目標に、滞在日数や客室のタイプに関する表現を練習し、教師とロールプレイを行った。		＜全員無償＞ 三橋美巴 寺地容子	＜全員無償＞ 岩田香里、侯翼君、網野瑞穂、 代市ゆり、小黑真輝	
8	平成30年9月8日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	6	アパート探し	不動産屋で条件に合った部屋を提案してもらうことを目標に、予算や部屋の大きさを伝える表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。		＜全員無償＞ 王ロセン 網野瑞穂	＜全員無償＞ 岩田香里、鄭紅、杜炳萱、 三橋美巴、田和美美菜、 小黑真輝	
9	平成30年9月15日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	4	日本人宅へ訪問	上司の家を訪問する際に、訪問先で相手により印象を持ってもらうことを目標に、状況に応じた適切な挨拶や話題の選択について学習し、学習者同士でロールプレイを行った。		＜全員無償＞ 田和美美菜 小黑真輝	＜全員無償＞ 岩田香里、杜炳萱、侯翼君、 網野瑞穂、代市ゆり	

10	平成30年9月22日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	5	病院	友人の通訳として、病院を訪れたことを想定し、初診受付でのやりとりができることを目標に、薬の飲み方に関する表現などを練習し、学習者同士でロールプレイを行った。	<全員無償> 代市ゆり 三橋美巴	<全員無償> 岩田香里、杜炳萱、 侯翼君、寺地容子、王ロセン
11	平成30年9月29日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	5	自己紹介② (状況に合わせた 自己紹介)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、短期の目標を新たに作成した。 ②場の状況に合わせた自己紹介ができることを目標に、内容や長さで話す練習を行い、様々な状況設定の自己紹介を学習者同士で行った。	<無償> 岩田香里	<全員無償> 鄭紅、網野瑞穂、代市ゆり
12	平成30年10月6日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	6	消防① (自文化との比較)	次回の消防士を迎えた授業の準備として、消防・救急のシステムにおける自文化との違いについて、学習者間で話し合い、質問を作成する活動を行った。	<全員無償> 岩田香里 杜炳萱	<全員無償> 鄭紅、寺地容子、小黑真輝
13	平成30年10月13日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 302室 303室	5	消防② (実践)	消防士に自己紹介や自文化の防災事情を紹介する活動を行った。また、緊急時における行動など、専門的な知識を尋ね、聞いてわかる活動を行った。(わくわくクラスと合同)	<無償> 杜炳萱	<全員無償> 岩田香里、鄭紅、侯翼君、 原珠希、網野瑞穂、 代市ゆり、田和美美菜
14	平成30年10月20日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	4	文化紹介① (レシピ紹介)	自文化の料理の作り方を説明できることを目標に、野菜の切り方や調味料などに関する表現を練習し、料理の作り方について発表した。また、紹介した料理のレシピを作成した。	<無償> 侯翼君	<全員無償> 鄭紅、杜炳萱、三橋美巴、 王ロセン、小黑真輝
15	平成30年10月27日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	6	文化紹介② (実践)	自文化の料理を食べてもらいながら、作り方を説明できることを目標に、作り方に関する表現の復習を行った。また、質問を受け答える活動を行った。さらに、料理の感想の表現を練習し、コメントし合う活動を行った。	<無償> 侯翼君	<全員無償> 岩田香里、鄭紅、杜炳萱、 原珠希、網野瑞穂、田和美美菜
16	平成30年11月10日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	5	観光案内① (名所を調べる)	遠方の友人が観光に来たことを想定し、簡単な観光案内ができることを目標に、学習院や自宅近辺の観光名所を調べる活動を行った。	<無償> 鄭紅	<全員無償> 杜炳萱、侯翼君、 寺地容子、王ロセン
17	平成30年11月17日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	2	観光案内② (名所を紹介する)	遠方の友人が観光に来たことを想定し、簡単な案内ができることを目標に、観光案内マップを作成し、名所を紹介する表現を練習した上で、教師とロールプレイを行った。	<無償> 鄭紅	<全員無償> 岩田香里、杜炳萱
18	平成30年12月1日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	5	イベントへの誘い	家族や友人を交流イベントに誘うことを目標に、チラシを作成した上で、誘う際の表現や断る際の表現を練習し、学習者同士で、作成したチラシを見せながら、イベントに誘うロールプレイを行った。	<無償> 岩田香里	<全員無償> 鄭紅、侯翼君
19	平成30年12月8日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	5	交流イベント	学習者が誘った友人や家族をゲストとして招き、交流イベントを行った。本教室がある学習院大学内の名所を紹介し、質問を受け、答える活動を行った。また、自文化の食べ物や飲み物の作り方を説明し、質問に受け答えをする活動を行った。	<無償> 杜炳萱	<全員無償> 岩田香里、鄭紅、侯翼君
20	平成30年12月15日 (土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303室	5	アルバムづくり	写真を見て、今までの授業でおこった出来事を他の人に説明できることを目標に、アルバムに入りたい写真を発表し、アルバムを作成する活動を行った。	<無償> 侯翼君	<全員無償> 岩田香里、杜炳萱

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第9回 平成30年9月15日】

地域社会の一員として生活するために必要な日本語と社会文化知識を扱う活動の一環として、「日本人宅への訪問」を扱った授業を行った。

(写真:左)学習者同士でロールプレイをしているところ(玄関先で靴をそろえている)

(写真:右)学習者同士でロールプレイをしているところ(手土産を渡している)



○取組事例②

【第13回 平成30年10月13日】

「集団での学び」を意識した活動の一環として、消防連携授業の際に、消防士に緊急時における行動についてなどの質問をし、専門知識を共有する活動を行った。

(写真:左)自文化の防災事情を説明し、日本との違いについて学習者同士で話し合った上で、学習者が消防士への質問を考えているところ

(写真:中央)質問内容が失礼でないか学習者同士や支援者で一緒に考えているところ

(写真:右)学習者が消防士に事前に考えた質問をし、答えてもらっているところ



(2) 目標の達成状況・成果

・学習者のアンケートによると、「日本語を使う機会が増えた」「学習者間のやりとりを通して、知識・視点が増えた」「教室でできなかったことを他の方法で調べたり、復習する時間が増えた」など、日本語の使用や日本語学習が増加したことがわかった。また、観察により、学習者が自己の日本語能力以上のことを伝えたい際には、学習者同士で互いの母語や共通語を使用しながら、助け合う態度がみられた。このようなことから、日本語の使用や日本語学習に対する動機の高まりには、一定の成果があったと言える。

・毎回の授業のテーマについて、学習者自身がゴールや目標を立てる活動を行った。学習者は最初はとまどっていた様子で、指導者が提示した目標例をそのまま使用することも多かったが、徐々に自身の目標を設定できるようになり、自律的・継続的な学習の促しができたと考えられる。

・教室内での学習や実践を通してできるようになったことを、消防連携授業や家族や友人を招いた交流イベントで発信したことで、よりよい質問内容やより分かりやすい伝え方を学習者同士で共に考える活動を通して、「集団での学び」が意識できたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

・学習者が目標を設定する際、設定内容は学習者に委ねられているため、設定した目標と指導者が事前に想定した授業の計画にずれが生じたことがあった。授業内容や学習項目を調整するなど、学習者の設定した目標に合わせた支援ができるよう、学習者が設定した目標を指導者や学習者同士で、共有する時間を設けるなどの活動が必要であろう。

・教室に通う時点で要支援段階(レベル2)程度(「とよた日本語能力レベル」を参考)の学習者を対象に、継続的・自律的な学びが促進されることを目指し、教室運営を行ったが、結果として継続的に教室に通う学習者は多くなかった。学習者が「継続的に教室に通いたい」、「教室で集団で学びたい」と思えるよう、学習者間の人間関係の構築・維持が促進される授業形態や教室活動を検討する必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:「共に学ぶ環境作り」を目指した研修】										
目的・目標	自律的な学びを促しつつ、教室での学び、集団での学びの重要性に配慮した授業計画や組織運営のできる人材を育成する。									
内容の詳細	日本語使用に対する動機づけ、動機の維持を促す活動、仲間と共に学ぶ意欲の醸成、指導者集団の組織作り、等をテーマに研修を実施した。教室に集って学ぶことの意義を再検討し、「集団での学び」と「個の学び」のそれぞれの重要性を意識し、具体的な活動を検討・試行する過程を組み込んだ。講師には、多文化共生、協働学習、学びの共同体作り、集団における教師の成長などの専門家、指導者集団作りの経験者をお呼びした。全10回の研修を通じ、研修参加者が協働的に学ぶ力を伸ばし、自身の成長や組織との関わりについて意識できるよう、平成29年度に作成した「研修受講者用ポートフォリオ」を修正し、活用した。									
実施期間	平成30年7月7日～平成31年2月23日				授業時間・コマ数		1回 3時間 × 10回 = 30時間			
対象者	豊島区及び近隣区域内に暮らし、「生活者としての外国人」に対する日本語教育に携わっている方々				参加者		総数 79人 (受講者 29人、公開講座のみ参加 40人、講師・補助等16人:内補助6人は受講者)			
カリキュラム案活用	「ガイドブック」、「日本語能力評価」を参考に講座内容・方法を検討した。 「指導力評価について」のチェックシート等を参考に、参加者が自身の活動や集団との関わりを振り返り、課題に取り組んでいくための「研修受講者用ポートフォリオ」を作成・実施した。									
使用した教材・リソース	各回の講師が配布資料、PPT資料等を作成									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	4									24 公開講座のみ参加40
	台湾(1人)									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年7月7日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西5号館301	27	「共に学ぶ場」を作るために	本講座全体の説明を行い、共に学ぶ場とは何か、学び合う場を作るために大切なことは何か等、個々の振り返りや、事例をふまえながら考えた。		唐木澤みどり ＜無償＞	秋山文菜(講師補助)	
2	平成30年7月21日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西5号館301	25	「共に学ぶ」とは何か	学習者と学習者、学習者と支援者が「共に学ぶ」とはどういうことか、どうしたら共学びは可能に、魅力的になるのかを受講者と共に考えた。		米勢 治子	冷 俊俊(講師補助)	
3	平成30年8月18日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 北1号館301	23	日本語教師、支援者の成長と他者とのかわり	日本語学習の場に関わる人として、これまでどのように課題を解決し、成長してきたか、課題の変化、同僚・組織とのかわりなどをテーマに、それぞれの今後を展望した。		金田 智子 ＜無償＞	岩田香里(講師補助)	
4	平成30年9月22日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西5号館301	23	日本語学校で講師はどうやって成長していくのか	日本語学校での「教材作り、同僚との意見交換、学習者のひとこと」などの成長の機会について紹介し、それぞれについて考えるタスクを行った。		西村 学	杜 炳萱(講師補助)	
5	平成30年10月13日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西2号館503	23	協働学習とは何か	協働学習(ピア・ラーニング)について、その必要性や理論を学び、協働の概念を持つ学習として対話的問題提起学習、ケース学習の事例を検討した。		池田 玲子	冷 俊俊(講師補助)	
6	平成30年11月10日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西2号館503	20	学習者も支援者も学び合う日本語教室	横浜市国際交流協会の運営する日本語教室を紹介をし、教室リニューアルの取り組みや教室活動の体験等を行った。		藤井 美香 日高 嘉恵	秋山文菜(講師補助)	
7	平成30年12月15日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西5号館301	23	わたしたちのストーリー ～声を伝える、声を聴く～	学習者と支援者、それぞれがお互いの声を伝え合うには、どのような実践を行ったらよいか、講師作成教材を用いながら話し合いを行った。		八木真奈美	鄭 紅(講師補助)	
8	平成31年1月12日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西5号館301	21	お互いの実践を紹介し合う・見直そう	各自の「共に学ぶ」ための実践(活動、教材等)を共有し、意見交換や悩みを相談し合うことを通して、よりよい実践に向けて検討した。		文野 峯子	岩田香里(講師補助)	
9	平成31年2月16日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西5号館301	63	＜公開講座＞ 1. 講演 2. 「共に学ぶための教材・活動」発表	「対話的で協同的な学びへー日本語教育における学びの共同体ー」と題した講演と、受講者による「共に学ぶための教材・活動」発表を行った。公開講座として、関心のある方々と広く交流した。		佐藤 学 (講演)	地引 愛、鄭 紅、杜 炳萱 (講師補助)	
10	平成31年2月23日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西5号館301	20	学び合い、成長し合う日本語学習の場ー「これまで」と「これから」ー	公開講座での発表の振り返り、及び講座全体の振り返りを行い、日本語学習の場の「これまで」と「これから」を考えた。		吉田 聖子 唐木澤みどり ＜無償＞	地引 愛(講師補助)	

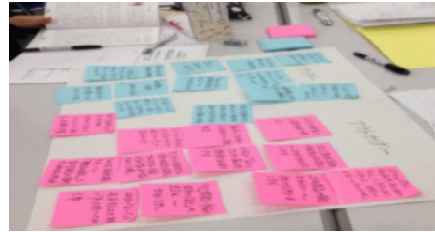
(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第7回 2018年12月15日】

講師：八木真奈美先生 テーマ「わたしたちのストーリー～声を伝える、声を聴く～」

1. 講師がこれまで日本で暮らす外国人から聴いてきた「声」を紹介し、一人一人のストーリーからわかることを共有【写真左】
2. (グループワーク) 日本で暮らす外国人が日本語で書いた「わたしの物語」を読み、各自が感じたことを付箋紙に書き、「インサイダー(内の視点)」「共感すること等」、「アウトサイダー(外の視点)」「経験がないこと等」のどちらかに分類して、用紙に貼る。【写真右】
3. グループで共有後、各グループを回り全体で共有(ギャラリーウォーク)。
4. 講師作成の教材「わたしたちのストーリー」の実践紹介。



○取組事例②

【第9回 平成31年2月16日】

公開講座(第1部)講演：佐藤学先生 テーマ「対話的で協同的な学びへー日本語教育における学びの共同体ー」【写真左】

「学びの共同体」に関する豊富な例を紹介し、現在の教育に求められている「聴き合う」「学び合う」協同的な学びの重要性について理論的基盤も含めて紹介していただいた。参加者からは「学ぼうとする人の意欲と可能性を育むことが大切だと思いました。」「日本語教育の場でもこのような環境を作ることが大切。」等、様々な感想が寄せられた。

(第2部) 受講者による「共に学ぶための教材・活動」発表【写真右】

・受講者がこれまでの講座で学んだことや実践してきたことを基に、各自の「共に学ぶための教材・活動」を紹介した。ポスター発表の形式で、A0版で作成したポスターを掲示し、教材等を展示した。ポスターのタイトルには「学習者と支援者が共に学び合うために」「教室の中は皆フラットな関係!」等本研修のテーマに沿ったものが多く見られ、限られた時間の中で多くの参加者と活発な意見交換を行うことで、「共に学び合う場」が形成されていた。



(2) 目標の達成状況・成果

・「共に学ぶ環境作り」を目指した研修として全10回行った。第7回までは、様々な講師による学習者同士、学習者と指導者・支援者、指導者・支援者同士が共に学ぶための理論や実践の紹介、事例の検討や工夫等を、グループ活動を交えながら学んだ。第8回はそれまでの学びを基に受講者がお互いの実践を紹介し合い、見直す活動をグループで行ったが、活発な意見交換が行われ、お互いの実践を参考にしたり、他者の意見を取り入れるなど共に学ぶ姿が多く見られた。公開講座として行った第9回では、第8回での見直し作業を基に受講者各自が実践あるいは考案した「共に学ぶための教材・活動」を発表し、成果を多くの人と共有できた。このように全10回の研修を通して、徐々に受講者同士の学びの場が形成されていった。毎回の研修での話し合いによって、お互いの意見を参考にしたり、他者の意見を取り入れて実践を改善するなど共に学び合えるようになったと考えられる。毎回のアンケート結果による研修の評価としては、「内容」、「情報・知識」、「わかりやすさ」、「考えの深まり」の全4項目において肯定的な評価が平均9割以上となった。「わかりやすさ」以外は昨年度の研修とほぼ同様の結果を得た。昨年度は8割弱だった「わかりやすさ」の項目についても9割の評価を得たことから、難しい内容も学び合いを通して理解が進むようになったのではないかと考える。

・研修受講者用ポートフォリオの活用については、第10回でアンケートを行った結果、3分の1は受講中から何らかの形で自身の実践に活かしていると答え、4割強が今後の実践に活かしたいと答えた。合計8割近くの受講者が学んだことを振り返るだけでなく実践に活用することを意識していたことから、一定の効果があつたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

・「共に学ぶ環境作り」を目指し、研修自体が「共に学ぶ場」となることにより、受講者同士が学び合いを通して地域の日本語教育における課題解決へのヒントを得たり、実践の改善に向かうことができるようになったと考える。しかし、学習者の自律的・継続的な日本語学習のための「集団での学び」の場作りのためには、研修の中だけでなく、継続的な指導者・支援者の「共に学ぶ場」が必要であろう。

・地域の日本語教室では、指導者・支援者と学習者が1対1であったり、毎回学習者が替わることもあるため、学習者同士の学びを検討しにくいという声もあった。教室を学習者、指導者・支援者が共に学べる場にしていくためには、一人一人の指導者・支援者の努力だけでは実現が難しい。運営体制自体を見直すことも含めた教室運営者同士の協働も今後の課題である。

・毎回振り返りシートを記入する時間は確保されていたが、ポートフォリオについて全体で扱えたのは第1回と第10回の2回のみだった。研修中から日々の自身の実践に活用することを意識化するために、活用の仕方の共有などの活動を取り入れられるとよかったのではないかと指摘があった。

日本語教育のための学習教材の作成 【教材の名称:「集団での学び」と「個の学び」の相互作用を促す「生活のための日本語」教材の開発】			
目的・目標	生活者としての外国人の日本語学習意欲の維持、日本語使用の促進をはかることを目指し、教室における「集団での学び」と教室内外の「個の学び」のそれぞれの有効性を感じることのできる教材を作成する。教材開発を通じ、在住外国人が日本語学習を継続し、日本語教室をはじめとする各種コミュニティにつながる環境を整える一助とする。		
内容の詳細	日本語の学習・習得のプロセスを、教室の外と内に段階的に配置し、「集団での学び」と「個の学び」が相互に機能するよう教材を作成した。具体的には、自宅学習のための映像教材・Web教材(youtubeを活用した話題導入や練習のための動画をいつでも視聴できる教材)、協働作業を必要とする教材である。 <教材構成> I. 事前学習(予習) 1. 日本での生活について:対面授業で取り扱う生活場面やテーマを理解し、自身の経験を振り返る 2. 言語学習と言語使用について:対面授業で取り扱う語彙の意味を調べる。 対面授業が取り扱う場面に関する動画を見て、分かる部分と分からない部分を把握する II. 事後学習(復習&実践) 1. 動画視聴①:対面授業で習った内容について動画を通して思い出す 2. 動画視聴②:動画は、動画視聴①と同じ内容だが、特定の部分が無音に編集されており、無音に切り替えるタイミングは口(くち)マークで示している。学習者は、ロマークが表示されている時間内に、その部分に相応しいセリフを言って練習する 3. 実践と言語使用の記録:対面授業で習った内容を、生活で実践した経験について記録し、実践した時の「自身の気持ち」と「相手の反応」を振り返る <教材内容> 各課は、「事前学習」・「事後学習」が含まれている。★で示した課は、平成30年度新規作成。 * 以下は、各課のタイトル(場面)及び【標準的カリキュラム案の番号】 第1課 「おはようございます！」(あいさつ)【VII 14(31)07】 第2課 「これ、お願いします！」(買い物)【III 5(08)20】 第3課 「なぜ薬がほしいんですけど…」(薬局)【I 1(02)02】 第4課 「ネクタイは何階ですか？」(道聞き)【III 5(06)06】 第5課 「浅草に行きたいんですけど…」(電車)【IV 7(10)02】 第6課 「財布をなくしたんですけど…」(落し物)【I 2(04)】 第7課 「これ、タイに送りたいんですけど…」(郵便)【X 21(45)01～02】 第8課 「禁煙をお願いします。」(レストラン)【III 05(08)25】 第9課 「おすすめは何ですか？」(レストラン)【III 05(08)26】 第10課 「何が有名ですか？」(近所の人と話す)【VII 14(31)07】 第11課 「助けてください！」(地震・火災)【I 02(05)03】 第12課 「どうやって使いますか？」(防災)【I 02(05)04】 第13課 「これは何ごみですか？」(ごみの分別)【VIII 15(34)02】 ★第14課 「これ、汚しちゃったんですけど…」(クリーニング屋)【III 05(08)35】 第15課 「予約したいんですけど…」(レストラン)【III 05(08)23】 第16課 「祖父が倒れました！」(救急車を呼ぶ)【I 2(5)07】 第17課 「シャワーは大丈夫ですか？」(病院)【I 1(01)03】 ★第18課 「ここを右に曲がってください」(タクシー)【IV 07(11)03】 第19課 「これ試着したいんですけど…」(試着)【III 5(08)12～14】 第20課 「時間ありますか？」(誘い)【VIII 16(35)03】 第21課 「休みの日は何をしますか？」(近所の人と話す)【VII 14(31)】 ★第22課 「花束を作ってほしいんですけど」(花屋)【III 05(08)17】 ★第23課 「おすすめはありますか？」(アドバイスをもらう)【IX 20(44)02】 第24課 「冬休みは、何をしますか？」(近所の人と話す)【VII 14(31)】 第25課 「これ、タイのおみやげです。」(近所の人と話す)【VII 14(31)】		
実施期間	平成30年5月～平成31年3月	作成教材の 想定授業時間	1回 2.5時間 × 25回 = 62.5時間
対象者	日本社会で生活する上で必要となる日本語が十分には身に付いていない方。	教材の頁数	105ページ
カリキュラム案活用	「標準的なカリキュラム案」に示されている言語行動を見直しつつ、「ガイドブック」記載の各種活動や「教材例集」を参考に、教室内外をつなげる活動・教材、協働性が生かされる活動・教材を開発した。「日本語能力評価について」の学習ポートフォリオの考え方を参考に、自身の日本語能力の評価、学習活動の振り返りが可能となる教材を作成した。		
事業終了後の教材活用	使用・修正を行い、公開をめざす(維持管理経費の要否により、無償公開とするか等、公開方法は未定)		

事前学習

22. 花束を作^{はな}ってほ^{つく}しいんですけど…

Q1. 友だちや家族に、花を買ったことはありますか？
Have you ever bought your family or friends flowers?
你有没有买过给你的朋友或家人送花？你有没有买花送给你的朋友或家人过吗？

Q2. ビデオを見てください。わかる言葉を書いてください
Write down the words you can catch after watching the video

 <https://youtube/a2AmPjOt6HE>

Diagram illustrating a neural network structure. The input layer is labeled 'input' and the output layer is labeled 'output'. A dashed line connects the input and output layers, with a label 'onegai simai' and a circled 'C'.

Q3. ことばの意味はわかりますか？
Do you know the meanings? (NAME)

① はなだは、

② だんじょうり
③ おめまい
④ 砂うが
⑤ つくり菓

事後学習

もういちど

【もういちど】の使い方 Way to use 使用方法

1 の場合があります。まずAの映像を見ます。つぎにBの映像を見ます。

ビデオに がいたら、 みてみましょう。

There is a situation. Watch the video before you watch video B. When watching video B try to say when you see the mouth mark.

一共有3個狀況，每個狀況先看A的影片，然後再看B的影片，當你看得到嘴巴的畫時，就試試說出來。

表1下結構，請先聽A的聲帶，然後再看B的聲帶，聽到嘴巴的圖印時，請試試說出來。

A  <https://youtube.be/ZGJh6v2F8to> 

B  <https://youtube.be/Y6w6d09aZ4588> 

[illegible]

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

生活者としての外国人が、継続的・自律的に日本語学習に取り組めるようになることを目指し、学習ニーズ及び学習環境を考慮し、個の学びと集団での学びのそれぞれの重要性に配慮した日本語教育プログラムを実施する。そのために、教室内の学びと教室外の学びの連動がはかれる教材の開発、「集団での学び」を鍵概念とした研修を行う。各種公共施設、交流団体などの協力も得ながら教材作成、教室運営を行い、地域に暮らす外国人及び彼らの日本語学習に対する一般社会の人々の理解を深めつつ、地域の日本語教育関係者のネットワーク作りに貢献することを通じ、知(地)の拠点として、地域に開かれた大学となることをめざす。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

○日本語教育の実施(以下、教室運営)においては、①今年度さらに修正を加えた学習ポートフォリオを使用し、学習者が自身の到達目標と行動目標を立て、その達成度を定期的に振り返ると同時に、目標の見直しを行うこと、②予復習を促す教材の使用に加え、学習したことは日常生活で実際に使うことを奨励する教材の使用や活動の実施、という2点を通じて、「個の学び」の機会を充実させ、自律的に学習する方法を身につけるための手助けができた。また、学習ポートフォリオを用い、授業内活動の振り返りだけでなく、授業外で行ったことを授業内で他の学習者と共有・評価するというを行い、相互に学び合う機会を設けた。これにより、他者とともに学ぶことの楽しさや意義を実感し、「集団での学び」に対する意欲を高めることや、「個の学び」に対するさらなる動機づけに導くことも可能となったと考える。ただ、周到な準備をし、新たな試みも用意したにもかかわらず、思ったように受講者数を増やすことができず(例、教室Aの平均参加者数は6名弱)、本事業での実施内容・方法の効果が十分にあらがったかどうかを判断するのは難しい。

○日本語教育を行う人材の養成・研修(以下、研修)の実施においては、10回の研修を通して、受講者は異なる現場の実践者の課題に対し徐々に共感を持って耳を傾けるようになり、お互いの実践を参考にしたり、他者の意見を取り入れて実践を改善するなど、共に学び合えるようになっていった。「集団での学び」を意識した実践や教材を検討できるようになっただけでなく、指導者/支援者自身が「集団での学び」を実践し、そういった組織作り、関係作りをしていくことの意義を体感できたのではないかと考える。学習者同士、学習者と指導者/支援者、指導者/支援者同士が共に学ぶための活動や教材を実践あるいは考案し、公開講座で発表した、「いろいろな方と意見交換ができて大変楽しかった」といった感想には、「集団での学び」の意義が実感できた様子が表れている。また、公開講座の一般参加者からも「関心のある内容が多く、勉強になった」等の感想が寄せられ、本研修の波及効果も期待できる。尚、募集定員15名のところ、参加登録者29名となり、毎回20名以上が出席した。

○日本語教育のための学習教材の作成(以下、教材作成)においては、2017年度までに開発した学習教材と学習ポートフォリオに加えて、予習と復習のリソースとして活用する動画等の教材を開発した。今年度の教材は、「予習」「復習」「対面授業」を有機的に結び付けることにより、「集団での学び」と、「個の学び」の相互作用を促すことにおいて一定の成果が見られた。具体的には、対面授業で学習目標を十分に達成できなさと感じた学習者や、自身の都合で授業を欠席した学習者は、対面授業でできなかったことを教材の使用を通して補うことができているという報告が多く寄せられた。

さらに、教師が提示した学習目標を無理やり全て達成しようとせず、自身のペースで学習を進めているというように、自身の目標を立てて対面授業に参加していることが観察されている。学習者にヒアリングしたところ、学びをサポートする様々なリソースを利用することによって、学習目標を時間内で完璧に達成できなくても、自分の目標や能力に合わせて学習すればよいという心理的な余裕が生じていることが分かった。

今年度作成した教材は、集団で学ぶ時間において、学習を個人の視点から意識・管理するとともに、個の時間では集団での学習の状況や課題を意識した学習を行うことを可能にし、「集団での学び」と「個の学び」の相互作用を促進するものとして活用されつつある。

○後述(4.)の通り、日本語教室、研修、教材作成のいずれにおいても、地域各所の協力を得ており、地域に暮らす外国人及び彼らの日本語学習に対する一般社会の理解を深める機会を作ることができた。また、研修(公開講座も含む)には豊島区内の8教室のうち6教室からの参加があったほか、NPOや社会福祉協議会等、外国人との接点がある組織からの参加もあり、2017年度までの参加者層をはるかに超える範囲の人々の情報交換・意見交換が可能となった。他地域の方々による教室見学なども増え、地域の日本語教育関係者のネットワーク作りに一定の貢献ができたと考える。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・既述のとおり、本事業では日本語教室及び教材作成において、標準的なカリキュラム案に準拠しつつ、学習者の目標や言語環境に応じて、カリキュラム案には含まれていない場面や言語行動を、「標準的なカリキュラム案」報告書内の「生活上の行為の事例の整理」にある項目を参考にして適宜、取り入れた。標準的なカリキュラム案や「生活上の行為の事例の整理」が公表されていることにより、教室のシラバス設計や教材作成において、特定の場面に偏りなくバランスの取れたテーマ設定ができると同時に、生活者である学習者のニーズに合わせた対応ができている。

・周知の通り、標準的なカリキュラム案も「生活上の行為の事例の整理」も「読む」「書く」が必要となる場面や言語行動に限りがある。コミュニケーション媒体の変化や、コミュニケーションを助ける各種ソフト、アプリの発展により、標準的なカリキュラム案の作成時期と比べ、現在の日常生活の中で繰り広げられる読み書きに関する行為は大きく変容している。そのため、「読む」「書く」が求められる場面とそこで繰り広げられる言語行動の見直しが必要と思われる。また、標準的なカリキュラム案も「生活上の行為の事例の整理」も挨拶や自己紹介など「人間関係の構築」に関わる言語行動は多いが、「人間関係の維持・発展」に関わる言語行動には限りがあると考えられる。外国人が人と知り合い、関係を築き、社会を広げ、日本社会で共生していくために、人間関係を維持・発展させる言語行動の追加が必要だろう。今後、この視点を教室運営において具体化し、その結果を還元していきたいと考えている。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

本事業は、豊島区の後援を受けており、日本語教室及び研修について、豊島区HP及び区報を通じた広報、豊島区公的機関・施設へのチラシの配置・配布等の協力を得た。豊島区の担当者には、随時、広報方法について具体的助言を得ており、以前にもまして、協力関係が深まっている。たとえば、研修については、社会福祉協議会にも広報誌を通じて公開講座の広報協力をしていただくことが可能となり、多くの参加者を得ることにつながった。特に、研修(公開講座を含む)には豊島区内の8教室のうち6教室からの参加があり、NPOや社会福祉協議会等、地域の外国人との接点がある組織からの参加もあった。地域の日本語教育関係者のネットワーク作りに一定の貢献ができたと考えられる。

教室実施において、従来通り、東京消防庁豊島消防署目白出張所との連携授業、近隣の飲食店の協力を得ての実践活動などを行った。こういった活動を通じ、外国人と日本人との交流機会を作り、相互理解の促進が可能となっている。その一方で、2018年度は従来にない新たな連携関係を築くことができておらず、学習内容・方法が教室内の限られた人間関係の中で、現実場面から切り離された状況で繰り広げられがちだとも言える。たとえば、学習者からは、医療関係者との連携授業を希望する声があるが、身近な医療関係者との関わりが築けてはいないため、地域住民ではない人に依頼をせざるを得なかった。これは、地域の人々の外国人理解・学習者理解の機会を逃していることになっているとも考えられる。今後、学習内容を見直し、取り上げる場面に応じて、地域各所において日本語教育関係以外の人々との協力関係を築いていきたい。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

○教室運営においては、豊島区HP及び大学HPを通じて広報を行った。また、幼保小中学校や区内日本語教室にチラシを配るなどして、事業の周知をはかっている。また、facebookを開設しており、随時、情報及び実施状況を掲載し、広報に努めている。また、いずれにおいても豊島区在住外国人の国籍内訳に応じ、可能な限り複数言語で対応している。

学習者が本教室を知ったきっかけは豊島区HPが最も多いが、他機関のHPであるため、最新情報が掲示されるまでに時間がかかること、必要な情報にたどり着くまでの言語が多言語化されていないという課題がある。これについては、今後、豊島区との協力強化による改善が必要である。

本事業の研修に教室担当者も参加しており、教材や教室活動を紹介することにより、区内外の指導者・支援者の方々に対し教室運営や教材作成に関する成果を伝えることが可能となっている。

○研修においてもチラシを作成し、区内日本語教室、近隣区の日本語教室統括部署、2017年度までに学習院大学で行った研修やシンポジウムの参加者等に郵送・手交・メール送信を行った。区内日本語教室には直接チラシを持参し情報交換等も行おう心がけた。豊島区の協力を得て、区のHPや広報誌を通じての広報、区内施設へのチラシ配布を行った。第9回の研修を公開講座とすることで広く関心のある方々にも参加していただき、講演と受講者による発表を通して本研修の成果を発信した。

○2018年度文化庁日本語教育大会でのパネル展示を通じて、本事業に多くの方々に関心を持っていただき、その方々からの問い合わせや見学希望に対応した。

○教室運営及び教材作成に関する成果の一部について、2019年度日本語教育学会春季大会においてポスター発表をすることが決まっている。地域のみならず、多様な日本語教育関係者に対して成果を発信し、意見交換をする機会を持つ予定である。

(6) 改善点、今後の課題について

○教室運営については、内容・方法の充実、教室内外の連続性強化、学習者の社会参加を目指し、地域関係者(医療関係者等)や他の日本語教室との連携協力を強化する必要がある。

予復習を含め、学習者が教室外で学ぶこと、日本語を使用することを促すための教材を作成したが、その運用については改善の余地がある。特に、事後学習教材を活用するかどうかは学習者の意思に任せられており、実際は十分な活用がなされていない。学習者それぞれの事後学習の状況や日本語使用経験を授業内で共有することも含め、教室外と教室内の学習の往還を検討し、「個の学び」と「集団での学び」のそれぞれに影響を与えるような取り組みを行う必要がある。さらには、教材や教室活動、指導者による支援がなくても、学習者が様々な学びの場やリソースを活用して継続的・自律的に日本語学習を進められるようになるにはどうしたらよいのか、学ぶ力を養成するとは何かについて再考し、その過程を形作っていくことを今後の課題とした。

○学習者の自律的・継続的な日本語学習を可能にする「集団での学び」の場を作っていくためには、日本語指導者/支援者は研修修了後も情報交換をしたり、学び合ったりする場があること、または作ることが望まれる。豊島区の場合は、地域日本語教育に関わる者同士が相互に学び合う場・機会を持たないため、指導者/支援者や関連機関が連携し、ネットワーク作りを模索していく必要がある。また、日本語教室自体が組織として、学習者、指導者/支援者が共に学べる場になるためには、教室の運営体制自体を見直すことを要する場合もある。それを可能とするには、教室運営者間の課題共有や協働が有効な方法の一つと捉え、その場を作ることを検討していきたい。その結果として、区内日本語教育関係者のネットワークが、集団での学びの場、いわゆる学びの共同体となることを期待したい。

○教材については、予習・復習を支援するリソースを作成したことに伴い、学習者が教室外で個人的に学習する機会が増えている。しかし、実際にそれぞれの学習がどのように行われているのかは十分に把握できてはおらず、自律的な学習に結び付いているのか、学ぶ力を培うことになっているのかは不明である。学習者アンケートでも予習・復習の教材について教室内で共有・確認する時間がほしいとの要望があった。今後、予復習用教材の活用方法の検討を行い、「集団での学び」と「個の学び」の相互作用をさらに強化していく必要がある。

また、対面授業で学んだ内容を生活に実践する部分に関しても、実践を振り返る活動がなく、「実践をしたら各自記録する」という学習者個人の努力に委ねる形が取られている。実践した学習者からは、習ったことを使ってみたものの、予想外のやりとりが生じているとの報告が寄せられた。そのこと自体は、新たな学びを生み出す貴重な経験だと思われるが、そういった実践経験が学習及び学習者の心理にどういった影響を与えているのか事例を重ねて明らかにしていくとともに、「実践の経験を学びに生かす支援」についての方法を検討する必要がある。

(7) その他参考資料

1. 案内チラシ: 日本語教室(日本語版、中国語版(簡体字版・繁体字版)、英語版、韓国語版、ミャンマー語版、ベトナム語版、ネパール語版)、研修
2. アンケート: 日本語教室(最終回)、研修(最終回)